

平成15年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

（2）高齢者の自立支援及び元気高齢者づくりのための調査研究等事業

痴呆ケアサービスの質の確保の方策に関する研究
入所施設における個別ケアの研究

社会福祉法人 浴風会

高齢者痴呆介護研究・研修東京センター（報告書 A4 版 2 頁）

事業目的

介護保険施設における痴呆ケアサービスの質を向上、維持させる方策として、以下の事業を実施した。新型特養といわれるユニットケアにおける個別ケア、従来の入所施設における個別ケアのより良いあり方を検討し、入所介護施設における個別ケアの効果的展開の内容を検討し、今後の施設介護の指針となる資料を提供することを目的とした。

事業概要

「入所施設における個別ケアに関する研究委員会」を設置し、6回の委員会を開催した。委員会で決定された計画に基づき、

1. 個別ケアの現状を把握する調査を実施した。方法は郵送によるアンケート調査。調査客対数は、介護保険施設を対象に、全国約 1300 施設。調査対象者は介護保険施設長ならびにフロアリーダーを務める介護職。
2. 1のアンケート調査の結果を元に、個別ケアの具体的状況を把握するために、訪問によるヒアリング調査を行なった。調査客体数は 15 施設。調査対象者は対象施設のフロアリーダーを務める介護職。
3. 以上の結果をまとめ、報告書を作成した。

事業結果

1. 調査回収率は 40%（全調査対象施設 1356 施設中 543 施設から回収）であった。表 1 に施設形態別の回収数を示した。次に施設長等の調査結果から、施設における個別ケア実践の有無について、実施している施設は全体で 415 施設(76.4%)であった。実施していない施設は 82 施設(15.1%)、わからないと回答した施設は 29 施設(5.3%)であった。次に現場責任者の調査結果から、現場における個別ケア実践の程度について、出来ていると回答した施設は 334 施設(61.5%)、どちらともいえないは 134 施設(24.7%)、出来ていないと回答した施設は 64 施設(11.8%)であった。
2. 施設長等の個別ケアの概念を KJ 法でまとめ結果約 30 に分類された。その中で「個人の人権を尊重し配慮したケア」が最も多く示された。個別ケアの要件については「職員の人材を確保し、十分な人材配置を確保することで、1対1に近い介護体制を確保すること」が最も多く示された。同じく KJ 法で現場責任者の個別ケア実践の条件をまとめた結果は約 70 に分類された。その中で「個人をよく知り理解すること」が最も多く示された。個別ケア実践の課題については「職員の人手不足」が最も多く示された。
3. 訪問調査では、施設形態に関係なく、それぞれに個別ケアを考慮した介護の工夫を行

なっていた。

事業実施機関

社会福祉法人 浴風会 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1 電話：03(3334)2173